

C O N T E N T S

広島大学医学部地域医療システム学講座

実績報告書 平成28、29年度



広島大学

目次

1

活動と成果の概要

01

2

講座スタッフ

02

3

ミッションごとの活動と成果の詳細

03

ミッション ①

地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会(啓発活動):ふるさと枠を中心とした医学部医学科生や初期研修医、後期研修医、地域の医療機関に勤務する医師、地域住民等を対象

03



ミッション ②

地域医療課題の調査・研究:地政学的特性や地域住民の受療行動の把握など

22

ミッション ③

地域医療課題への対応:地域医療に求められる医療人(医師)養成・育成システムの立案・実施など

28



ミッション ④

地域医療体制確保のための県内医療機関等に対するコーディネート業務と支援:広島県地域保健医療推進機構が行う業務に対する技術的助言・協力等

33

4

添付資料

34

5年生地域医療実習優秀レポート

34

ふるさと枠入学案内パンフレット

45

講座のホームページ

46

当講座は、以下の4つのミッションを果たすため平成22年度に広島県の寄付講座として広島大学医学部に開設されました。

①地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会（啓発活動）

- ふるさと枠を中心とした医学部医学科生や初期研修医、後期研修医、地域の医療機関に勤務する医師、地域住民等を対象

②地域医療課題の調査・研究

- 地政学的特性や地域住民の受療行動の把握など

③地域医療課題への対応

- 地域医療に求められる医療人（医師）養成・育成システムの立案・実施など

④地域医療体制確保のための県内医療機関等に対するコーディネート業務と支援

- 広島県地域医療センターが行う業務に対する技術的助言・協力等

平成28年および29年度の2年間で各ミッションに対して以下のような活動を行い、成果を得ました。

- ①広島大学医学部ふるさと枠の学内における制度運営、およびふるさと枠に所属する約120名の学生の教育をおこないました。講座開設以降ふるさと枠の入試倍率は4倍前後と、義務年限型の地域枠推薦入試としては全国でも高い水準を維持しております。ふるさと枠学生の毎週の勉強会、春・夏・冬の実習や合宿を企画・実行し、地域医療への理解の促進と仲間意識の醸成を行っています。また一般医学科生への教育については、5年生全員を県内中山間地の病院に一週間派遣する地域医療実習の運営を行いました。約240名にこの実習を行い、ほぼ100%が地域医療をよりよく知ることができたと評価し、4分の1以上の学生について将来地域医療に従事する意向が増加しました。現地指導医のためのFDも毎年開催しました。その他、3年生、4年生、6年生への講義も行いました。
- ②医師の地理的分布に関する研究等を行い、論文が国際誌に掲載されました〔原著14報（筆頭著者4報）、他4報（筆頭著者1報）：合計インパクトファクター37.805〕。また全国49大学254名の教員が加盟している全国地域医療教育協議会の「地域枠出身医師のコホート研究」の本部として文部科学省、厚生労働省、全国医学部長病院長会議と共同しながら実施しております。これら研究に対して研究代表者として文部科学研究費の助成を受けました。その他分担研究者として厚生労働科学研究費、文部科学研究費を受給しました。
- ③平成25年度に作成した「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」を、平成29年度に現在の中山間地の医師需給状況および新専門医制度に即した物に更新し、義務年限内のふるさと枠出身医師の進路や配置原則等を示しました。また広島大学病院の各診療科に「診療科別ふるさと枠医師キャリアプラン」を更新いただきました。これらキャリアプランをふるさと枠学生および卒業生に説明、周知いたしました。さらに各診療科を訪問し、ふるさと枠出身者の配置に関する原則の確認、情報の共有を行いました。当講座スタッフがふるさと枠医師等キャリア支援委員会およびそのワーキンググループの委員を務め、ふるさと枠医師の中山間地医療機関への配置調整も行いました。

④広島県地域医療支援センターの医監を当講座スタッフが兼務し、同センターおよび広島県と緊密な連携を取りながら、ふるさと枠制度の運営、地域医療セミナーの共同開催等を行いました。また広島県へき地医療支援機構運営会議、若手医師等育成支援事業選考委員会、ふるさと枠医師等キャリア支援委員会、同委員会ワーキンググループ、広島県地域保健対策協議会医師確保対策専門委員会、同協議会在宅医療介護連携推進専門委員会、在宅医療にかかる医療機能調査小委員会の委員を当講座スタッフが務めました。また広島市在宅医療・介護連携推進委員会の委員長、および在宅医療の推進方策専門委員会、ICTの活用方策の検討専門委員会の委員も当講座スタッフが務めました。

2

講座スタッフ



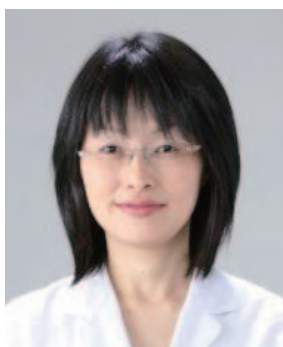
教授 竹内 啓祐
(平成28年度まで)



教授 松本 正俊
(平成29年度より)



講師 服部 文子
(平成28年度まで)



助教 石田 亮子
(平成29年度より)



助教 木村 一紀
(平成29年度より)

事務

石川 典子

松藤 葉子

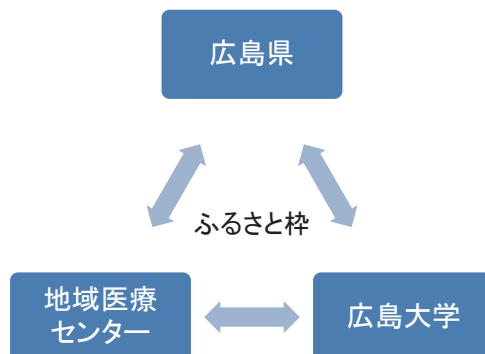
ミッション①

地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会（啓発活動）：ふるさと枠を中心とした医学部医学科生や初期研修医、後期研修医、地域の医療機関に勤務する医師、地域住民等を対象

A ふるさと枠の運営・教育

広島県、広島県地域医療支援センター、広島大学医学部の連携により、ふるさと枠入学者の教育、ふるさと枠制度の運営を行っております。以下の教育プログラムを提供しております。

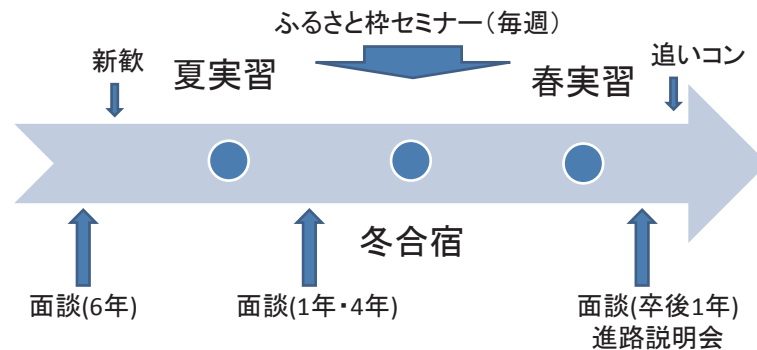
ふるさと枠を支える仕組み



ふるさと枠の教育プログラム

目的	プログラム	内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年	卒1年	卒2年
地域医療 マインド	ふるセミ	毎週or隔週（1-3年は必須）	○	○	○	○				
	地域医療 セミナー	夏 医療現場体験（1泊：必須）	○	○	○	○				
		冬 合宿でのグループワーク等（1泊：必須）	○	○	○	○				
		春 医療現場体験（1泊～3泊：希望者）	○	○	○	○				
	海外研修	希望者（不定期）	○	○	○					
広島定着	個別面談	進路指導、研修先相談、入局相談	○			○		○	○	○
	説明会	臨床研修制度説明				○	○			
		配置手順、キャリアパス説明						○	○	○

年間スケジュール



①地域医療研究会（ふるさと枠セミナー：通称ふるセミ）

講座開設直後の平成22年4月より昼食をとりながらふるさと枠1～4年生全員でミーティングをしています。隔週あるいは毎週一回行っています。ふるさと枠制度のオリエンテーション、医療面接の実習、実技の実習、臨床知識のミニ講義、現地実習のための準備、将来のキャリアプランや地域医療をテーマとした話し合いなどを行っています。ふるさと枠学生の将来への不安解消、モチベーション維持、アイデンティティの確立、仲間意識の醸成につながるよう心がけています。活動内容は学生代表を中心に幹部学年（3年生）が相談して決めており、当講座教員および広島県地域医療支援センターも適宜提案を行います。当講座スタッフは常時参加いたしました。

～前期スケジュール～

今年度前期の目標は、「学年をこえて仲良くなる」です。
同じ班の人とたくさんおしゃべりして、仲良くなりましょう！

4/12 (水)	新入生歓迎/撮影・オリエンテーション・自己紹介
4/19 (水)	学部長挨拶・全体撮影
4/26 (水)	ゲーム
5/10 (水)	ゲーム
5/17 (水)	松本先生より制度説明
5/24 (水)	新任 木村先生から
5/31 (水)	休み
6/7 (水)	医療手技
6/14 (水)	新任 石田先生から
6/21 (水)	お楽しみ
6/28 (水)	お楽しみ
7/5 (水)	夏セミナー事前学習

※スケジュールは変わることもあるかもしれません。変更があれば連絡します。毎回、お弁当を出します。

また今年度から各学年代表を通じて欠席連絡をしてもらうことになりました。欠席するときは理由を添えて各学年の学年代表まで連絡するようにしてください。欠席が続くと地域医療システム学から呼び出し・面談があります。

この他、5月に新歓を予定しています（日程は調整中）。

また、夏の実習は8月半ば～下旬ごろ行う予定となっています。

詳しい日程は追って連絡しますので、スケジュールを空けておいてください。

※24年度入学生、25年度入学生、26年度入学生の方は自由参加とします。

何かわからないことがあったときは

b155400@hiroshima-u.ac.jp (3年 七尾 裕太) まで連絡してください。

～後期スケジュール～

同じ班の人とたくさんおしゃべりしたり、3年生を中心に飲み会を企画したりして仲良くなりましょう！

10/11 (水)	顔合わせ・ゲーム
10/25 (水)	ふるさと枠キャリアプランについて
11/8 (水)	冬合宿 説明会
11/15 (水)	※女性医師の義務年限の過ごし方
11/29 (水)	※知事指定診療科（病理診断科）について
12/13 (水)	※篠原先生ご講演
1/10 (水)	バイタルサイン測定実習
1/17 (水)	医療面接ロールプレイ
1/24 (水) 最終回	2年生企画の会

※女性医師義務年限についての講演は自治医大卒で県立広島病院総合診療科の井原弥子先生を、知事指定診療科についての講演は大学病院病理診断科の有廣光司教授をお呼びするので、必ず出席するようによろしくお願いします。

※毎回、お弁当を出します。

また今年度から各学年代表を通じて欠席連絡をしてもらうことになりました。欠席するときは理由を添えて各学年の学年代表まで連絡するようにしてください。欠席が続くと地域医療システム学から呼び出し・面談があります。

この他、3月中旬に追いコンを予定しています（日程は調整中）。

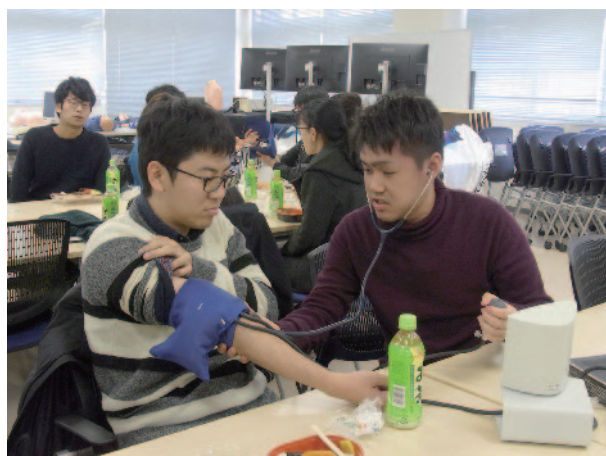
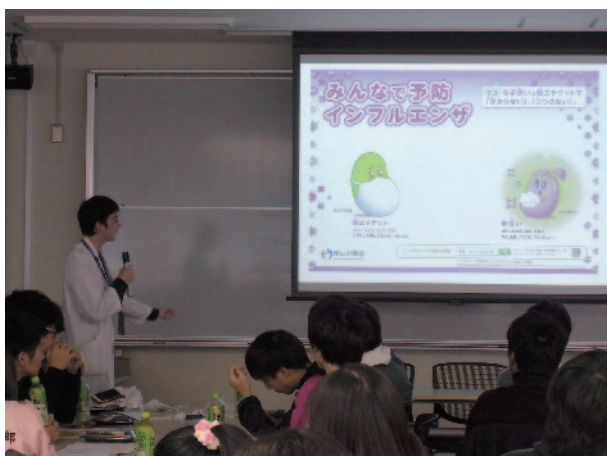
また、冬合宿は12月26日、27日ごろ行う予定となっています。

詳しい日程は追って連絡しますので、スケジュールを空けておいてください。

※24年度入学生、25年度入学生、26年度入学生の方は自由参加とします。

何かわからないことがあったときは

b155400@hiroshima-u.ac.jp (3年 七尾 裕太) まで連絡してください。





②夏季実習（地域医療セミナー）

毎年夏季休暇中に本講座、広島県、(財)広島県地域保健医療推進機構、広島県国民健康保険診療施設協議会の共催で地域医療現地実習を行いました。

平成28年8月22日、23日、24日、25日 県内中山間地の医療機関17カ所で泊まり込みの実習を行いました。参加者は本学ふるさと卒学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など85名で、4名ごとに分かれて各診療所で実習を行いました。最終日は大学に集合して実習報告を行い、中山間地の医療について学んだことを共有しました。優れた報告プレゼンテーションを表彰いたしました。実習後の評価では96%の学生が将来のへき地勤務に肯定的な回答をしていました。

※参加者

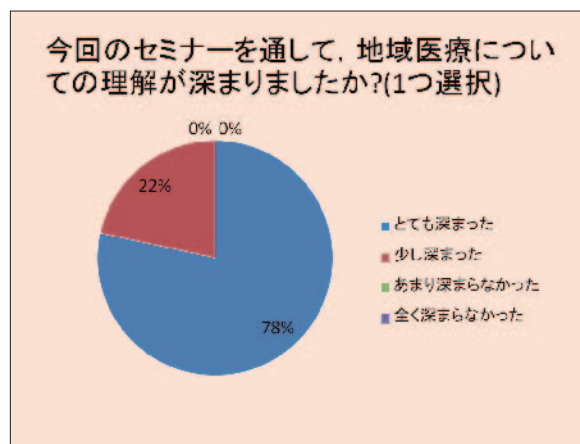
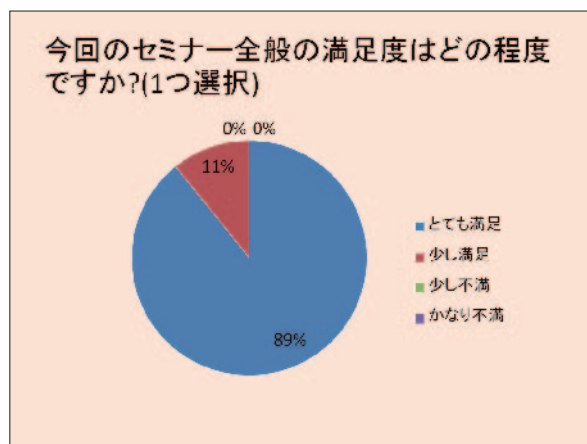
学 年	自治医科大学	広島大学ふるさと卒		岡山大学 地域卒	県奨学生	市町奨学生
		広島県コース	岡山県コース			
1年生	2人	18人	2人	0人	－	0人
2年生	1人	19人	2人	1人	0人	1人
3年生	1人	14人	2人	0人	0人	0人
4年生	4人	17人	1人	0人	0人	0人
小 計	8人	68人	7人	1人	0人	1人
合 計	85人					

※他、広島大学医学部保健学科看護学専攻2名参加

※実施医療機関一覧（県内17医療機関）

区 分	診療所コース		病院コース	
	医 療 機 関 名	所 在	医 療 機 関 名	所 在
西 部	吉 和 診 療 所	廿日市市	安 芸 太 田 病 院	安芸太田町
	雄 鹿 原 診 療 所	北広島町		
南 部	越 智 医 院	呉 市		
	円 山 医 院	大崎上島町		
	田 村 医 院	大崎上島町		
	森 本 医 院	呉 市		
	南 海 診 療 所	東広島市		
東 部	大 和 診 療 所	三 原 市	公立みつぎ総合病院	尾 道 市
	瀬 戸 田 診 療 所	尾 道 市	沼 隈 病 院	福 山 市
北 部	甲 奴 診 療 所	三 次 市	庄 原 赤 十 字 病 院	庄 原 市
	総 領 診 療 所	庄 原 市	西 城 市 民 病 院	庄 原 市
			神石高原町立病院	神石高原町

※実習後アンケート





平成29年8月21日、22日、23日、24日 昨年同様に県内中山間地の医療機関18カ所で泊まり込みの実習を行いました。本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など92名が参加しました。4人1組の小グループを24班編成し、予め学生自身が実習内容を企画して、各医療機関を訪問しました。医療現場での学びに加えて、先生方と夕食を共にする中で地域医療に対する思いを伺うことができた、大変貴重な実習となりました。最終日は広島県医師会館に集合して各班の実習報告を行い、学んだことを共有しました。優れた報告プレゼンテーションを表彰しました。実習後のアンケート調査の結果、99%の学生が地域医療についての理解が深まったと回答しました。

※参加者

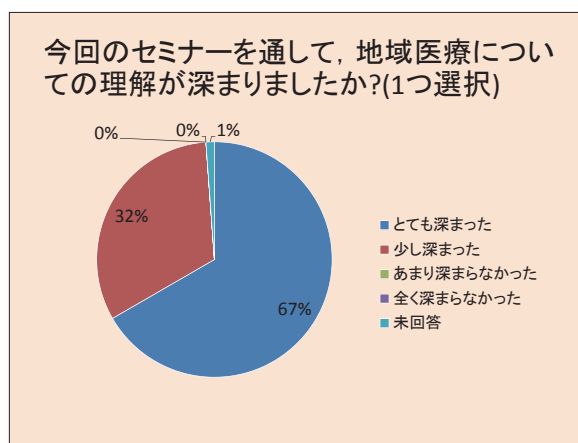
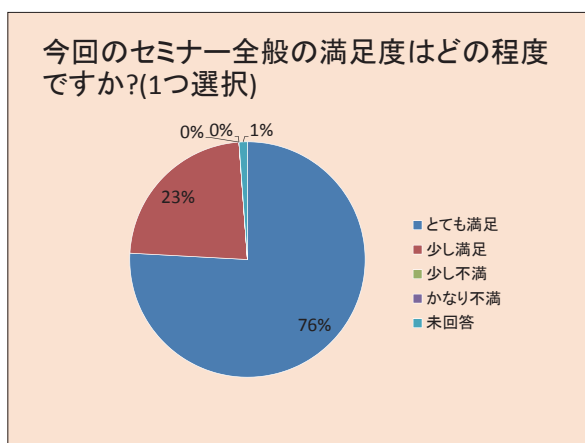
学 年	自治医科大学	広島大学ふるさと枠		岡山大学 地域枠	県奨学生	市町奨学生
		広島県コース	岡山県コース			
1年生	3人	18人	2人	2人	—	0人
2年生	1人	19人	2人	0人	0人	0人
3年生	3人	17人	2人	1人	1人	1人
4年生	2人	16人	1人	1人	0人	0人
小 計	9人	70人	7人	4人	1人	1人
合 計	92人					

※その他 広島大学医学科1名、広島大学看護学2名

※実施医療機関一覧（県内18医療機関）

区 分	診療所コース		病院コース	
	医療機関名	所 在	医療機関名	所 在
西 部	吉 和 診 療 所	廿日市市	安 芸 太 田 病 院	安芸太田町
	雄 鹿 原 診 療 所	北広島町		
南 部	越 智 医 院	呉 市		
	円 山 医 院	大崎上島町		
	田 村 医 院	大崎上島町		
	森 本 医 院	呉 市		
	南 海 診 療 所	東広島市		
東 部	大 和 診 療 所	三 原 市	公立みつぎ総合病院	尾 道 市
	瀬 戸 田 診 療 所	尾 道 市	沼 隈 病 院	福 山 市
北 部	甲 奴 診 療 所	三 次 市	庄 原 赤 十 字 病 院	庄 原 市
	総 領 診 療 所	庄 原 市	西 城 市 民 病 院	庄 原 市
	作 木 診 療 所	三 次 市	神石高原町立病院	神石高原町

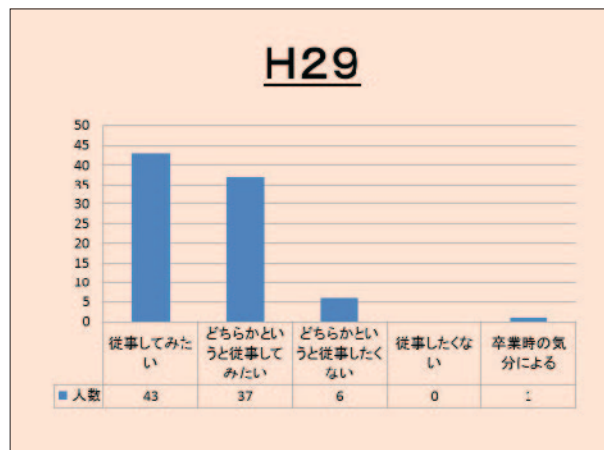
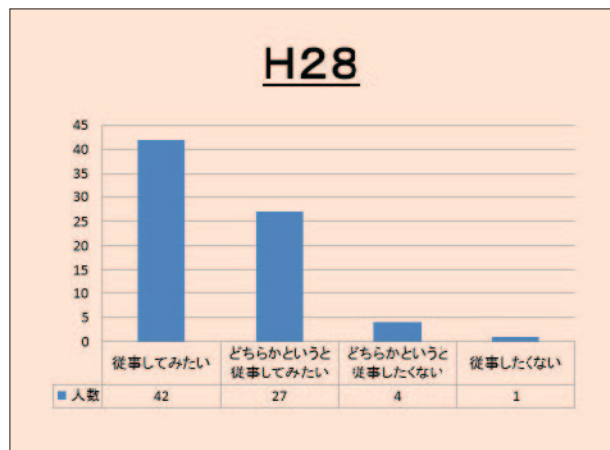
※実習後アンケート



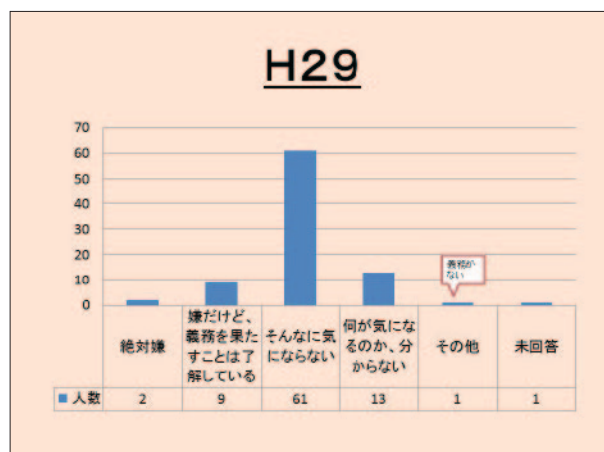
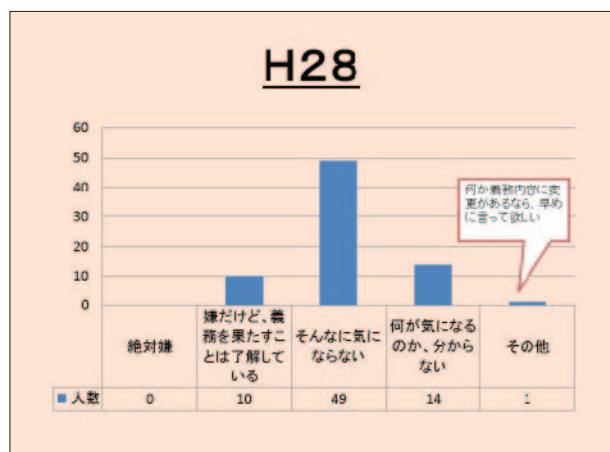


地域医療セミナー後アンケート

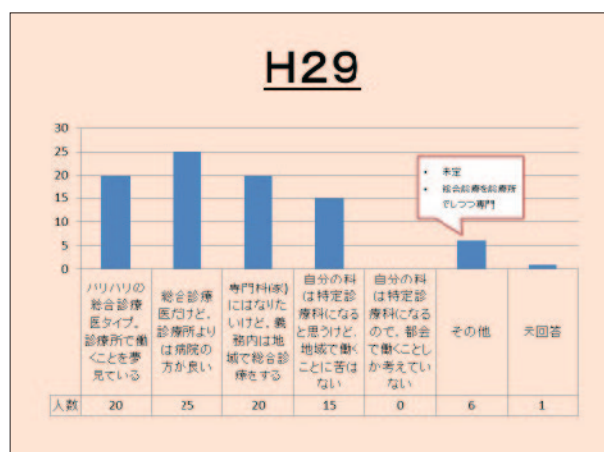
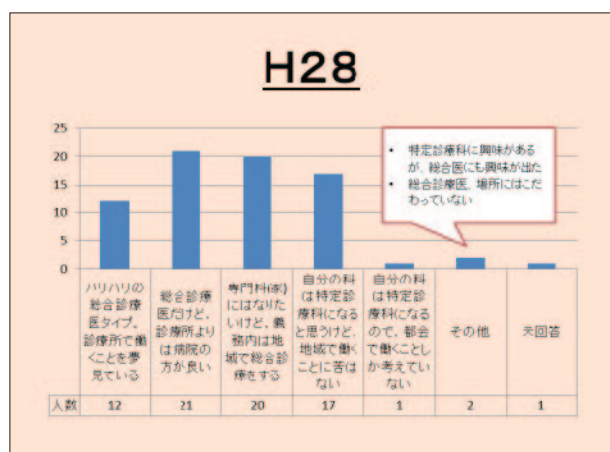
あなたは将来、へき地医療に従事してみたいですか？



義務があることに関して、どのように考えていますか？



今、自分が目指している方向性に近いものは？



③冬季実習（冬合宿）

本講座と(財)広島県地域保健医療推進機構の共催で毎年冬期休暇中に合宿勉強会を行っています。

平成29年1月7日、8日 呉市安浦町にある「グリーンピアせとうち」にて一泊の合宿を行いました。参加者は本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生など58名でした。初日はまず自己紹介を兼ねたレクリエーションを行い、その後広島市西区で医院を開業し在宅医療に力を入れておられる落久保裕之先生のレクチャーがありました。テーマは地域包括ケアと在宅医療で、このテーマでのグループワークも行いました。二日目は「サイダーハウス・ルール」という医療ものの映画を鑑賞し、「倫理的に許される違法行為はあるか？」といった難しいテーマについてグループワークも行いました。



平成29年12月26日、27日 福山市沼隈町の「ツネイシしまなみビレッジ」で合宿を行いました。参加者はふるさと卒生、自治医科大学生、広島県奨学生77名でした。初日はまず、福山市内で在宅医療専門のまるやまホームクリニックを開業しておられる丸山典良先生に「在宅医が考えるこれからの医師像」というタイトルでご講演頂いた後、グループに分かれて症例検討を行い、在宅医療に必要な考え方について学びを深めました。次に、ふるさと卒第一期卒業生で、市立三次中央病院循環器内科の小畠啓史先生に「学問のすゝめ」というタイトルで、学生時代の過ごし方についてご講演頂き、その後グループワークで学生時代にしておきたいことを話し合いました。2日目は映画「私の中のあなた」を鑑賞した後、臓器提供を受けるレシピエントやドナーとなるご家族の気持ちを考えながら、グループワークを行いました。



④春季実習

毎年春季休暇中に泊まり込みの現地実習を行っています。春季実習は希望者のみの参加としています。

平成29年3月中旬～下旬、計7名が1～2名ずつ医療機関を訪問し1名2日の実習をさせていただきました。施設ごとに特徴的なプログラムを作成していただきました（ご協力いただいた施設：公立みつぎ総合病院、雄鹿原診療所、安佐市民病院、瀬戸田診療所）。

平成30年2月下旬～3月中旬、計11名が前年同様に実習をさせていただきました。事前に各施設の担当医師と相談しながら実習内容を計画しました。少人数ならではの充実した実習となりました（ご協力いただいた施設：安芸太田病院、雄鹿原診療所、安佐市民病院、越智医院、瀬戸田診療所）。

⑤個別面談

平成28年度、29年度とも、ふるさと卒の1年生、4年生全員に対し、学生2名と教員1～2名が昼食を伴にする形式で面談を行い、学業のこと、大学生活のこと、将来の進路のことなどを話し合いました。6年生については一人一人について個別面談を行い、臨床研修病院の選び方やその後の進路のことなどを指導・相談しました。また、平成29年度は、当講座石田と地域医療支援センターの女性職員1名が、11月、12月にふるさと卒卒業生の全女性医師14名の勤務先を訪問し、個別面談を実施しました。現在困っていることや、将来の進路や生活のことなどを話し合うことができました。

⑥臨床研修説明会

平成28年12月1日および平成30年2月21日、4年生（希望者）、5年生（全員）に対して臨床研修説明会を開催しました。臨床研修マッチング制度に関する説明、およびふるさと卒学生が研修病院を選ぶ際の注意点の説明を行いました。

⑦ふるさと卒出身医師の配置に関する説明会

平成28年2月24日および平成29年9月27日に4年生以上の学生および卒業生を対象に配置に関する説明会を実施しました。特に平成29年は新専門医制度を踏まえて更新したキャリアプランの説明、および新規に定めた育児休業に関する取り決めの説明を行いました。会の終了後は卒業生の同窓会を行い、その場で臨床研修医については入局の希望調査も行いました。

⑧岡山大学医学部医学科地域卒広島県コース学生面談

平成29年11月30日、広島県健康福祉局医療介護人材課職員、松本、木村が岡山大学を訪問し、地域卒広島県コースの学生と面談し、広島県における義務履行の説明を行いました。

⑨ふるさと卒卒業生へのキャリア支援

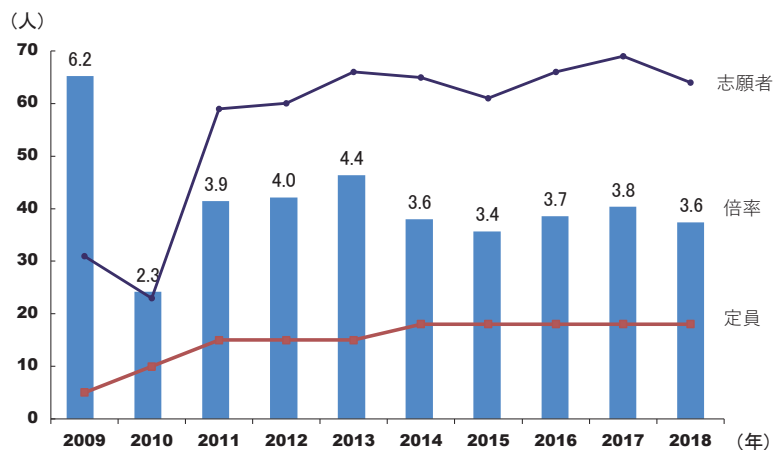
広島県、広島県地域医療支援センター、広島大学医学部と連携し、ふるさと卒卒業生へのキャリア支援を行っております。詳細は「ミッション③ 地域医療課題への対応：地域医療に求められる医療人（医師）養成・育成システムの立案・実施など」をご参照ください。

⑩ふるさと卒の学生確保、卒業生の安定確保

広島県および広島県地域保健医療推進機構と共同し、ふるさと卒の学生確保のための各種対策を行っています。具体的には受験生確保のための高等学校訪問、校生向けのパンフレット作成（毎年更新）、キャ

リアプラン作成のための学内外の調整を行っています。当講座開設直前の平成22年の入試では2.3倍まで落ち込んだ入試倍率ですが、当講設置後の8年間については、定員を大幅に増やしたにも関わらず、入試倍率は4倍前後と全国の地域枠推薦入試の中でもトップクラスを維持しています。

また、順調に進級し卒業できるよう、ふるさと枠学生全員の個別面談を行ったり、個別相談を受け入れたりなど、きめ細かな指導を行っています。平成21年度の制度開始から平成29年度に至るまで奨学金返還者は0名であり、ふるさと枠広島県コースの留年率は広島大学の一般医学科生の四分の一以下となっています。また医師国家試験の合格率も一般医学科生と比べて遜色ないものとなっています。



ふるさと枠広島県コースの定員、志願者数、入試倍率の推移

広島大学ふるさと枠の義務遵守状況

平成21年～29年度入学者計154名

奨学金返還者0名

広島大学における平成21年～29年度（8年間）の進級状況

	広島大学医学部医学科	ふるさと枠広島県コース
のべ総数	6,171	571
のべ留年者数	176	4
留年率	2.9%	0.7%

医師国家試験合格状況（平成27～30年）

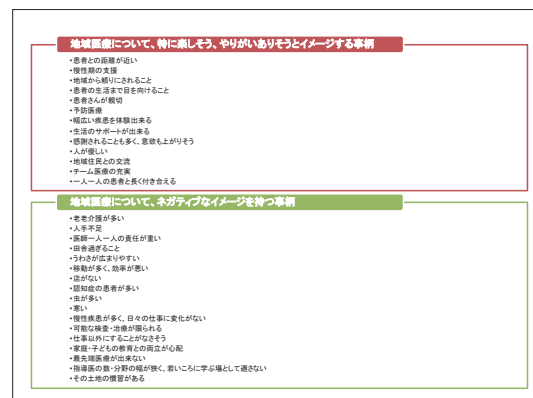
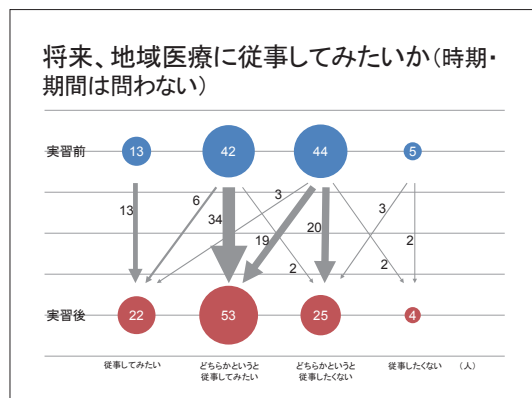
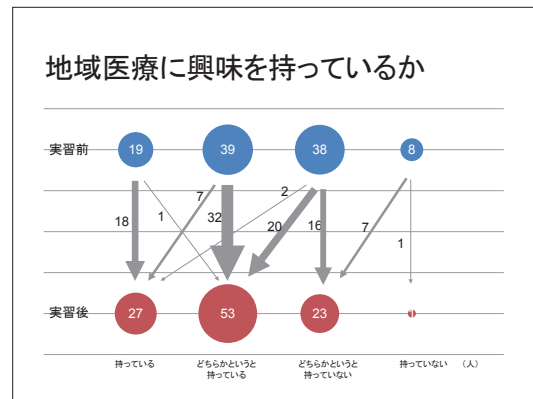
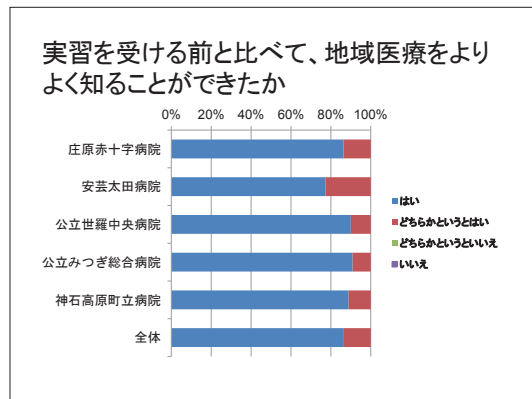
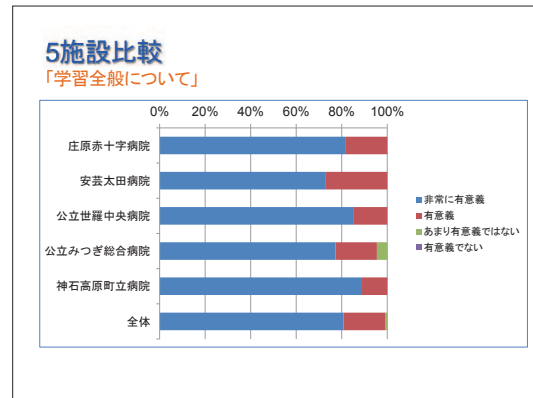
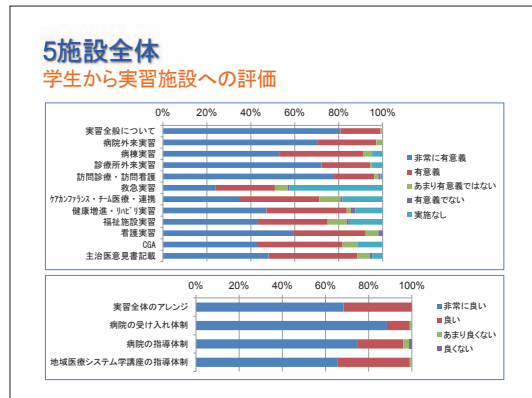
	広島大学医学部医学科	ふるさと枠広島県コース
のべ受験者	478	51
のべ合格者数	435	49
合格率	91.0%	96.1%

B 一般医学科生の教育

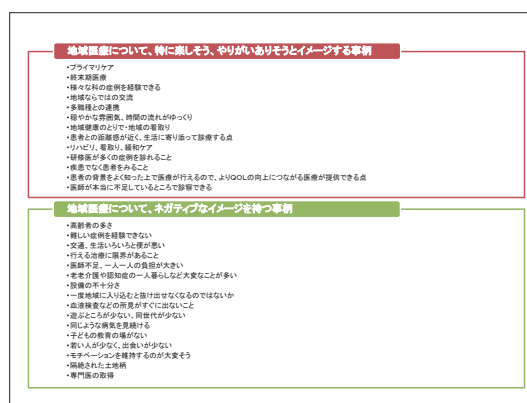
① 5年生地域医療実習

一般医学科5年生に対しては平成22年度よりクリニカル・クラークシップの一環として、中山間地の病院に一週間泊まり込みで行う地域医療実習を開始致しました。

平成28年度は5年生約120名全員が2名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院のいずれかで4泊5日の現地泊り込みの実習を行いました。外来実習、看護体験、診療所見学、在宅訪問、高齢者施設見学、1次救急、ケアカンファランス等々、文科省のモデル・コア・カリキュラムを参考に、各病院の特徴をだしたプログラムを作成しました。当講座スタッフも週1回現地に赴き学生教育に携わりました。全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると35%が地域医療に興味が増し、30%が将来地域医療に従事する意向が増加しました。



尚、本実習は平成29年度に実施された5年生の全臨床実習（28診療科）中、2番目に高い評価を受けました（学生アンケートの結果）。



平成28年度、平成29年度と臨床実践学において、地域医療、地域保健、介護保険に関する国家試験対策講義を松本が1コマ担当しました。

③ 4年生講義

平成28年度、29年度と臨床実習入門プログラムにおいて、地域医療実習に関する講義を松本が1コマ担当しました。帝京大学の井上和男教授に地域医療学に関する講義を、公立みつぎ総合病院の沖田光昭副院長に地域包括ケアに関する講義を、それぞれ1コマ担当いただきました。平成29年度、石田、木村は症候診断治療学のチューターを担当しました。

④ 3年生講義

平成28年度、29年度と器官・システム病態制御学において、松本は「医師需給と医師偏在について」と題して医師の需給、偏在、諸外国の医療制度について講義を行いました。石田は平成29年度「高齢化社会での在宅支援～介護・医療の視点から～」というタイトルで、現役の介護支援専門員（ケアマネジャー）2名をゲストスピーカーにお呼びして、介護保険制度や高齢者の生活の現状などについての講義を行いました。また愛媛大学地域医療学講座の川本龍一教授にお越しいたきプライマリ・ケア、地域包括ケア、愛媛県の地域医療の現状について講義していただきました。

⑤ 1年生講義

平成28年度、29年度と医学科1年生を対象に竹内が「高齢者医療における倫理」と題して講義しました（平成29年度は客員教授として）。石田は平成28年度、29年度、「医療とコミュニケーション」というテーマで講義を行いました（平成28年度は総合診療科医科診療医として）。木村は平成29年度、同じく「医療とコミュニケーション」と題して講義を行いました。

⑥ 4年生社会医学実習

平成28年4月～5月、医学科4年生6名を受け入れ、研究指導を行いました。「広島県における災害医療」というテーマで、広島県医療介護計画課、広島県立広島病院、広島市立安佐市民病院尾道総合福祉センターの専門家インタビューを行い、広島県の災害対策の現状、土砂災害時の対応について調査を行いました。

社会医学実習

広島県における災害医療

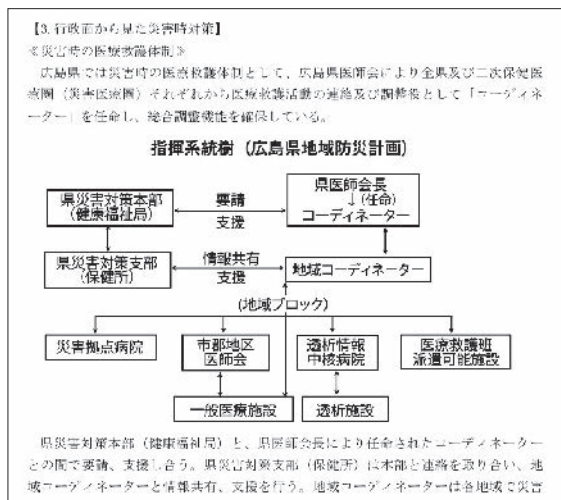
【担当学生】
 B134506 齊藤 皓平
 D131942 幸 浩樹
 B130770 大沢 航
 D134577 佐久木 一樹
 D124625 戸田 慶
 D126418 川上 大輔

【指導教員】
 地域医療システム学講座
 教授 竹内 啓希 先生
 准教授 松本 正徳 先生

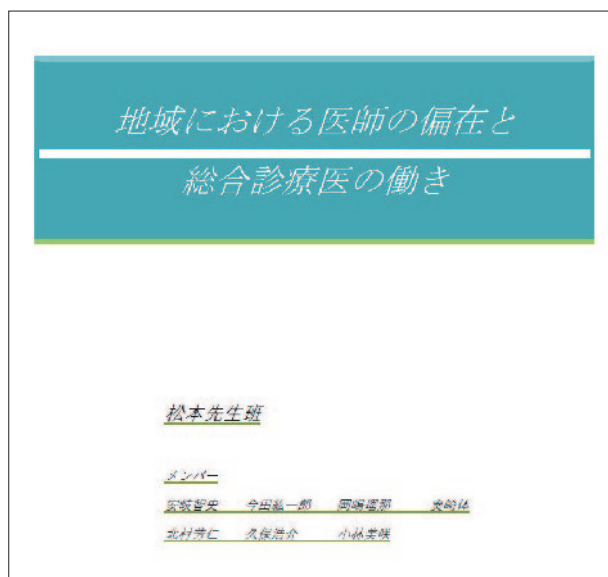
【実施場所】
 安佐市民病院
 県立広島病院
 広島県庁

【実施期間】
 平成28年4月7日～4月20日

【目次】
 1. 目的
 2. 方法
 3. 行政面から見た災害時対策
 4. 災害拠点病院でのインタビュー
 5. 考察
 6. 古典
 7. 総評



平成29年4月～5月、医学科4年生7名を受け入れ、研究指導を行いました。「地域における医師の偏在と総合診療医の働き」と題して、厚生労働省公表のデータを用いた分析、雄鹿原診療所、小坂内科医院へのインタビューを行いました。その結果を踏まえ、開業医に総合診療能力の向上、かかりつけ医機能の強化、大病院の専門医療への特化などの考察、提言を行いました。



⑦6年生卒業試験

松本が本学医学部附属医学教育センターの副センターを兼務し、平成28年度、29年度の卒業試験の企画・運営を担当しました。本学の卒業試験は複数科のブロック制によるマークシート試験となっております。全ブロックの試験問題作成依頼、問題の取りまとめ、試験の実施、監督、採点、評価などを当講座スタッフが行いました。

⑧5、6年生アドバンスト臨床実習（臨床実習Ⅱ）

松本が医学教育センターの業務として平成28年度のアドバンスト臨床実習（臨床実習Ⅱ）の企画・運営を行いました。アドバンスト臨床実習は平成27年度から学外施設の参加を大幅に増やしたため、これに伴う各病院との連絡、実習日程のアレンジなども行いました。

⑨4年生臨床実習入門プログラム

平成28年度、29年度の4年生臨床実習入門プログラムの採血実習、医療面接実習を当講座スタッフが担当しました（採血実習は平成29年度のみ）。

⑩共用試験OSCE

平成28年度、竹内が実行委員長を担当しました。平成28年度、29年度、石田は学内評価者として参加しました（平成28年度は総合診療科医科診療医として）。

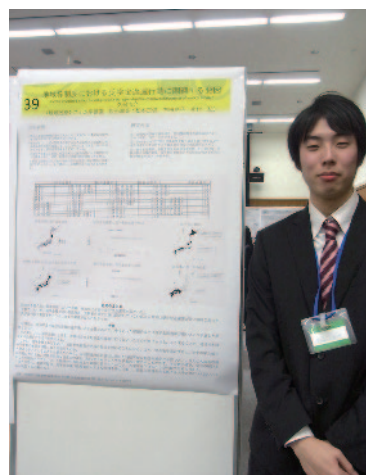
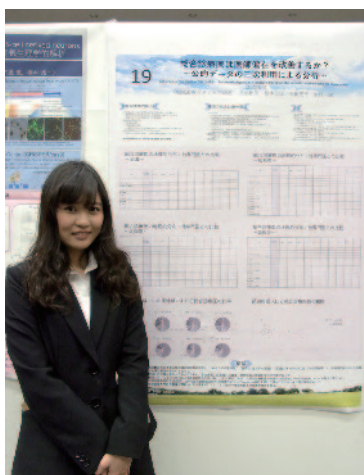
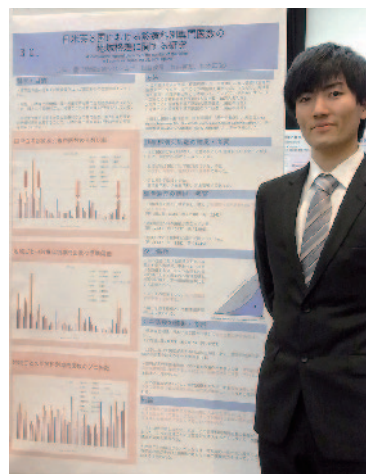
⑪1年生医療行動学

平成28年度、29年度医学科1年生を対象に医療行動学実習を5名ずつ2回実施しました。大学病院外来を患者の立場で移動して動線を確認し、患者受療行動や地域医療について話し合いました。

⑫ 4年生医学研究実習

平成28年度は2名の学生の担当講座となり、研究指導を行いました（10月～1月）。1名は全国の無医地区に関するデータ分析、および広島県・岡山県の無医地区対策に関する聞き取り調査を行いました。もう1名は日米英の3か国における専門医数とその地理的分布に関する研究を行いました。

平成29年度（10月～1月）も2名を担当し、1名は日本における総合診療医の数と地理的分布、新専門医制度における総合診療医偏在対策の現状把握、および総合診療医に関する日本と諸外国との制度比較を行いました。もう1名は全国の地域枠制度の現状および義務離脱に影響する諸因子の分析を行いました。



㉔ 研修医教育

① 広島大学病院の初期臨床研修医教育

平成22年度より継続して広島大学病院総合内科・総合診療科の外来において、当講座スタッフが指導医となり初期臨床研修医の外来教育を行っています。

② 卒後臨床研修管理委員会

平成28年度は竹内が、平成29年度は松本が上記委員会の委員を務めました。また広島大学病院の医科研修医オリエンテーション「医療面接」や広島卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会のタスクフォースを務めました。

③ 藝州北部ヘルスケアネットワーク

平成21年より芸北地域等の医療支援を目的とした研修会が安佐市民病院土手慶五副院長を代表世話人として実施され、当講座の竹内、松本は顧問として参画していました。

Ⅱ 学内での教授会および教育関連委員会

医学科会議、医学科企画会議、医学部長室会議、医学部教授会、医学教育センター運営会議に出席しました。また卒業OSCE実施委員会、試験制度改革委員会、医学科教育プログラム評価委員会の委員を松本が務めました。さらに分野別認証受審準備ワーキンググループのメンバーを松本が務め、広島大学医学部の日本医学教育評価機構（JACME）分野別認証受審に向けた準備を行い、受審当日（平成30年）はすべての領域別検討会議に出席しました。

Ⅲ その他

①大学院講義

大学院修士課程の総合医療実践学特論において松本が「社会医学における地域格差（Geographic analysis in public health）」を、医療政策・国際保健学概論において「医師の偏在（Geographic distribution of physicians）」の講義を行いました。

②地域医療に関する講演・啓発

広島県国保診療施設協議会において平成28年度は「地域医療人材育成の実情と今後の方向性（竹内）」、平成29年度は「日本および広島県の医師偏在の現状と対策について（松本）」の講演、啓発活動を行いました。

③他大学での教育

平成28年9月13日第28回鹿児島地域医療教育報告会（鹿児島大学1、2年生の実習報告会）のコメントーターを松本が務めました。

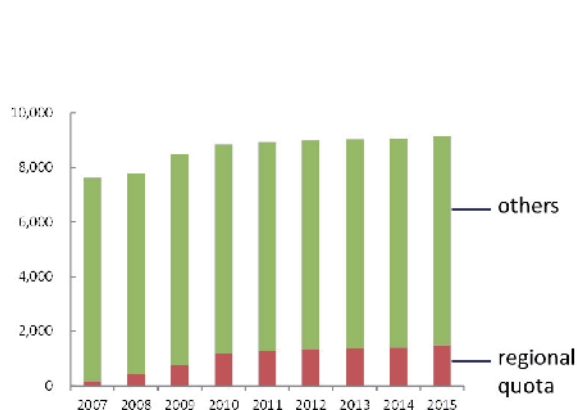
ミッション②

地域医療課題の調査・研究：地政学的特性や地域住民の受療行動の把握など

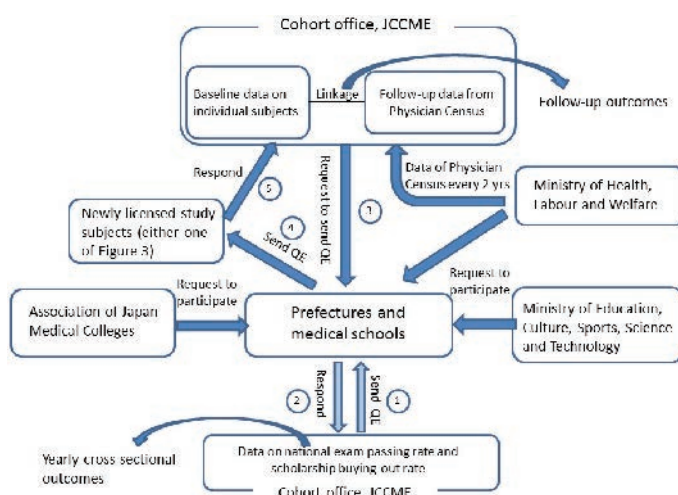
A 研究内容と成果

①地域枠出身医師の進路に関するコホート研究

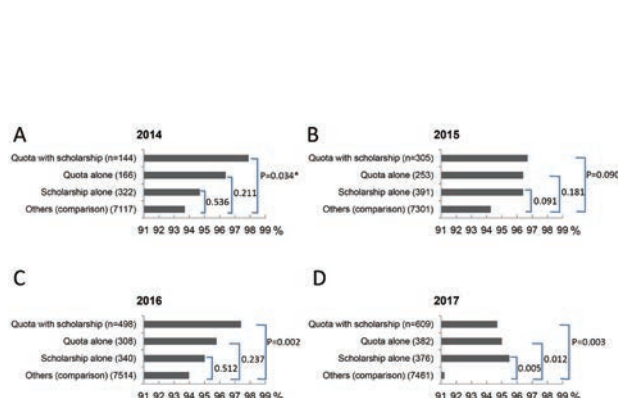
文部科学省、厚生労働省、全国医学部長病院長会議の協力のもと、全国地域医療教育協議会（全国48大学の地域医療関連講座が加盟）の「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究」の研究本部として、全国の大学医学部・医科大学に所属する地域枠学生、および都道府県の奨学金受給医学生の進路を追跡



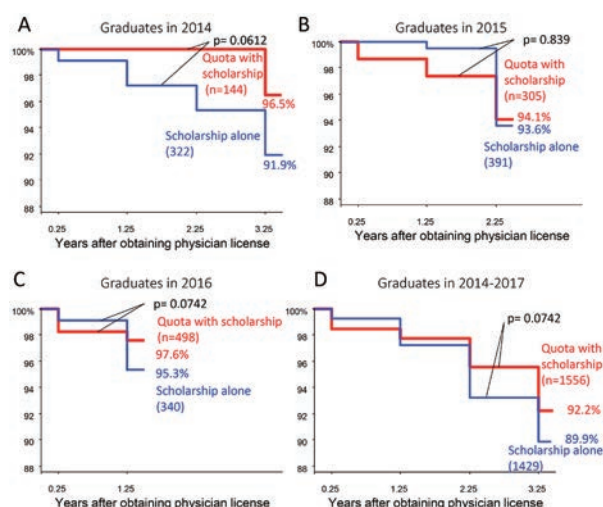
地域枠入学人数の推移
(BMJ Open 6: e011165, 2016)



地域枠コホートの研究デザイン
(BMJ Open 6: e011165, 2016)



地域枠出身者の医師国家試験合格率
(BMJ Open 7: e019418, 2017)



地域枠出身者と奨学金受給者の卒後義務履行率
(BMJ Open 7: e019418, 2017)

する研究を進めています。現在までに4か年分、1,500名の地域枠医師・奨学金受給医師のベースラインデータを収集しました。今後、厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師調査」の個票データとリンクさせることで進路（特に地理的分布）をフォローアップしていく予定です。

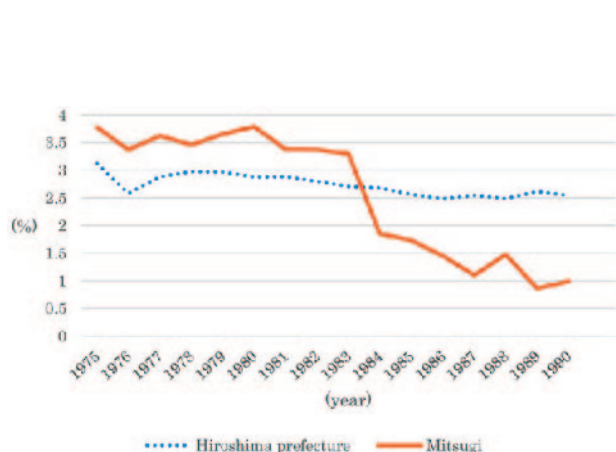
平成28年度と平成29年度は全国の都道府県と大学に行った横断調査の結果を論文として発表しました。

②全国医学部長病院長会議「地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会」

全国医学部長病院長会議「地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会」の委員を松本が務め、全国の大学医学部・医科大学、都道府県、地域医療支援センターに対してアンケート調査を行い。地域枠制度の現状に関するデータを収集いたしました。結果を報告書としてまとめました。

③その他研究

専門医療の集約化や専門医のキャリア選択に関する研究、東日本大震災の被災地からの医師流出に関する研究、糖尿病や高血圧の疫学研究、公立みつぎ総合病院の地域包括ケアシステムが国の医療政策に与えた影響の研究、新専門医制度下での総合診療専門研修プログラムの現状に関する調査研究などを行い、それぞれ結果を論文として発表いたしました。



在宅寝たきり高齢者率の推移
(Int J Integr Care 17 (2): 1-9, 2017)



1981: The special nursing home and the rehabilitation centre had been constructed



1989: The geriatric health care facility had been established



1993: The care house had been constructed



2002: The group home for elderly people with dementia had been established

みつぎにおける地域包括ケア施設の拡張
(Int J Integr Care 17 (2): 1-9, 2017)

B 2016-2018年研究実績一覧

(2016-2018合計インパクトファクター 37.805)

■ 原著論文

1. Koike S, Matsumoto M, Ide H, Kashima S, Atarashi H, Yasunaga H. The effect of concentrating obstetrics services in fewer hospitals on patient access: a simulation. *Int J Health Geogr* 15: 4, 2016
2. Matsumoto M, Takeuchi K, Tanaka J, Tazuma S, Inoue K, Owaki T, Iguchi S, Maeda T. Follow-up study of the regional quota system of Japanese medical schools and prefecture scholarship programmes: a study protocol. *BMJ Open* 6: e011165, 2016
3. Koike S, Shimizu A, Matsumoto M, Ide H, Atarashi H, Yasunaga H. Board-certified surgeons' career pathways in Japan. *Surg Today* 46 (6): 661-7, 2016
4. Hoshide S, Yano Y, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Matsui Y, Nakamura A, Fukutomi M, Eguchi K, Ishikawa J, Kario K; J-HOP Study Group. Morning and evening home blood pressure and risks of incident stroke and coronary artery disease in the Japanese general practice population: the Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study. *Hypertension*. 68 (1): 54-61, 2016
5. Matsumoto M, Mizooka M, Tazuma S. General practice departments of university hospitals and certified training programs for general practitioners in Japan: a nationwide questionnaire survey. *J Gen Fam Med*. 00: 1-5, 2017
6. Kashima S, Inoue K, Matsumoto M. Characteristics of physician outflow from disaster areas following the Great East Japan Earthquake. *PLoS One* 12 (1): e0169220, 2017
7. Kashima S, Inoue K, Matsumoto M, Akimoto K. Low serum creatinine level is a type 2 diabetes risk factor in men and women: Yuport Health Checkup Center Cohort Study. *Diabetes Metab* 43, 460-464, 2017.
8. Hatano Y, Matsumoto M, Okita M, Inoue K, Takeuchi K, Tsutsui T, Nishimura S, Hayashi T. The Vanguard of Community-based Integrated Care in Japan: The Effect of a Rural Town on National Policy. *Int J Integr Care* 17 (2): 1-9, 2017
9. Koike S, Matsumoto M, Ide H, Kawaguchi H, Shimpo M, Yasunaga H. Internal medicine board certification and career pathways in Japan. *BMC Med Educ* 17: 83, 2017
10. Kashima S, Inoue K, Matsumoto M. Have the tsunami and nuclear accident following the Great East Japan Earthquake affected the local distribution of hospital physicians? *PLoS One* 12 (5): e0178020, 2017
11. Matsumoto M, Takeuchi K, Owaki T, Iguchi S, Inoue K, Kashima S, Tazuma S, Maeda T. Results of physician license examination and scholarship contract compliance by the graduates of regional quotas in Japanese medical schools: a nationwide cross-sectional survey. *BMJ Open* 7: e019418, 2017
12. 井上和男、鹿嶋小緒里、松本正俊、竹内啓祐. : 最寄りの一・二次医療機関までの道路距離は地域指標とどのように関連しているか：三次医療圏およびへき地小地区での分析 へき地・離島救急医療学会誌 15 : 8-14, 2017
13. Hatano Y, Haruma K, Kamada T, Shiotani A, Takahari K, Matsumoto M, Uchida O. Factors associated with gastric black spot, white flat elevated mucosa, and cobblestone-like mucosa: a

cross-sectional study. *Digestion* (in press)

14. Matsumoto M, Kimura K, Inoue K, Kashima S, Koike S, Tazuma S. Aging of hospital physicians in rural Japan: a longitudinal study based on national census data. *PLoS One* (in press)

■ 総説論文、症例報告論文

1. 竹内啓祐：超高齢社会の医療—地域包括ケア時代の在宅医療—。 *広島医学*69 (2): 111–5, 2016
2. Takamura, A., Matsumoto, M., Ishikawa, S. Rural health in Japan: past and future. *Rural Remote Health* 17: 4521, 2017
3. 松本正俊、石田亮子、木村一紀、田妻進：わが国における病院総合診療医数とその分布について：公的データに基づく推計 *日本病院総合診療医学会雑誌* 13 (3): 61–64. 2017.
4. Kimura K, Mizooka M, Migita K, Ishida R, Matsumoto M, Yamasaki S, Kishikawa N, Kawahara A, Kikuchi Y, Otani Y, Kobayashi T, Miyamori D, Ikuta T, Nakamura H, Yokobayashi K, Iwamoto S, Kanno K, Ohira H, Tazuma S. Five cases of familial Mediterranean fever in Japan: relationship with MEFV mutations. *Internal Med.* (in press)

■ 競争的外部研究費獲得

代表研究者として

1. 平成28年度文部科学省科学研究費補助金「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究」(基盤C：代表松本正俊) 104万円
2. 平成29年度文部科学省科学研究費補助金「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究」(基盤C：代表松本正俊) 117万円
3. 成30年度～34年度(内定) 文部科学省科学研究費補助金「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究とエビデンスに基づく政策の提案」(基盤C：代表松本正俊) 429万円

■ 分担研究者として

1. 平成28年度文部科学省科学研究費補助金「新医師臨床研修制度は医師分布を改善したか—人口地理指標・診療科・施設からの分析」(基盤C：代表帝京大学井上和男、分担松本正俊)
2. 平成28年度厚生労働省科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)「ニーズに基づいた専門医の養成に係る研究」(代表自治医科大学小池創一、分担松本正俊)
3. 平成29年度文部科学省科学研究費補助金「新医師臨床研修制度は医師分布を改善したか—人口地理指標・診療科・施設からの分析」(基盤C：代表帝京大学井上和男、分担松本正俊)
4. 平成29年度厚生労働省科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「ニーズに基づいた専門医の養成に係る研究」(代表自治医科大学小池創一、分担松本正俊)
5. 平成30年度(内定) 文部科学省科学研究費補助金「新医師臨床研修制度は医師分布を改善したか—人口地理指標・診療科・施設からの分析」(基盤C：代表帝京大学井上和男、分担松本正俊)
6. 平成30年度(内定) 厚生労働省科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「へき地医療の向上のための医師の働き方およびチーム医療の推進に係る研究」(代表自治医科大学小谷和彦、分担松本正俊)
7. 平成30年度(内定) 厚生労働省科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「ニーズに基づいた専門医の養成に係る研究」(代表自治医科大学小池創一、分担松本正俊)

■ 報告書

1. 全国医学部長病院長会議（AJMC）調査委員会（松本正俊他9名）：平成27年度地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告 AJMC発行 2016
2. 全国医学部長病院長会議（AJMC）調査委員会（松本正俊他9名）：平成28年度地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告 AJMC発行 2017

■ 学術誌編集

2010年から学術誌Rural and Remote Healthのアジア地区編集長(Asian Regional Editor)を松本が務め、アジア地区からの投稿論文の採否決定を行った。また2016年から日本プライマリ・ケア学会の英文誌Journal of General and Family Medicineの編集委員（Associate Editor）も松本が務めている。

■ 招待講演等

1. 竹内啓祐：この街で最期まで安心して暮らすために～私たちができること～ 中区地域包括ケアフォーラム（広島国際会議場）（平成28年5月21日）
2. 松本正俊、田妻進：大学病院総合診療部門による総合診療専門医養成プログラムに関する調査 第16回全国大学病院総合診療部門連絡協議会（広島市）（平成28年7月7日）（招待講演）
3. 竹内啓祐：医師確保に関する動向 広島県診協平成28年度医師等確保対策研究協議会（広島市）（平成28年7月28日）
4. 服部文子：認知症を理解する講座（神石高原町）（平成28年9月6日、27日）（招待講演）
5. 竹内啓祐：訪問介護への期待 ―地域包括ケアシステムを地域に繋げるために― 介護福祉士講演会（広島市）（平成28年9月7日）
6. 竹内啓祐：見守りと支え合いであったかくて元気な地域をつくろう 神石講演会（広島県神石高原町）（平成28年11月8日）
7. 竹内啓祐：地域包括ケア時代の地域医療―薬剤師の関わりについて― 広島県精神科病院協会薬剤師部会学術大会（広島市民病院）（平成29年1月29日）
8. 竹内啓祐：超高齢社会の医療―地域包括ケア時代の在宅医療― 退院支援に関する職員研修会（広島大学病院）（平成29年2月20日）
9. 竹内啓祐：各大学からの事例紹介「地域医療に貢献する医師確保に向けて」 第7回中四国地域医療フォーラム（徳島市）（平成29年2月25日）（招待講演）
10. 松本正俊：地域枠出身医師のコホート研究について 日本医学教育学会地域医療教育委員会 地域医療教育講演会（京都市）（平成29年3月18日）（招待講演）
11. 松本正俊：地域枠入学制度のアウトカムについて 第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会シンポジウム「地域医療と総合診療」（高松市）（平成29年5月13日）（招待講演）
12. 松本正俊：医師の偏在、広島大学での地域診療教育 第17回愛媛プライマリ・ケア研究会（松山市）（平成29年7月1日）（招待講演）
13. 松本正俊：地域枠入学制度のアウトカムについて―地域医療教育のエビデンスを交えて 奈良県立医科大学医学教育フォーラム（橿原市）（平成29年9月1日）（招待講演）
14. 服部文子：認知症を理解し、地域で見守るために（神石高原町）（平成29年9月20日）（招待講演）
15. 松本正俊：地域枠制度のアウトカムについて：全国および広島県の状況 全国医学部長病院長会議 地域枠制度についての意見交換会（中国・四国ブロック）（広島市）（平成29年9月30日）（招待講演）
16. 松本正俊：地域枠制度のアウトカムについて：全国および広島県の状況 全国医学部長病院長会議 地域枠制度についての意見交換会（近畿ブロック）（京都市）（平成29年12月9日）（招待講演）

17. 松本正俊：地域枠制度のアウトカムについて：全国および広島県の実況 全国医学部長病院長会議 地域枠制度についての意見交換会（九州沖縄ブロック）（福岡市）（平成29年12月23日）（招待講演）
18. 松本正俊：新専門医制度下の地域枠出身者のキャリア形成：広島大学の取り組み 第8回中四国地域医療フォーラム（山口市）（平成30年2月10日）（招待講演）

■ 学会発表

1. 松本正俊、竹内啓祐、井上和男、大脇哲洋、井口清太郎、前田隆浩：地域枠出身者や奨学金受給者の国家試験合格率は高い：全国コホート調査の中間報告 第48回日本医学教育学会（大阪市）（平成28年7月29日）
2. 松本正俊、小池創一、鹿嶋小緒里：画像診断機器および放射線科医の数と地理的分布について 第75回日本公衆衛生学会（大阪市）（平成28年10月27日）
3. 松本正俊、井上和男、鹿嶋小緒里、小池創一：へき地における病院勤務医師の高齢化について 第76回日本公衆衛生学会（鹿児島市）（平成29年11月1日）

■ 座長、司会等

1. 松本正俊：第14回日本病院総合診療医学会学術総会（岡山市）（平成29年3月4日）（一般演題座長）
2. 松本正俊：第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（高松市）（平成29年5月13日）（一般演題座長）
3. 松本正俊：全国医学部長病院長会議地域枠制度についての意見交換会（中国・四国ブロック）（広島市）（平成29年9月30日）（実行委員・座長・司会）
4. 松本正俊：全国医学部長病院長会議地域枠制度についての意見交換会（東北・北海道ブロック）（盛岡市）（平成29年10月21日）（実行委員・座長・司会）
5. 松本正俊：全国医学部長病院長会議地域枠制度についての意見交換会（東海・北陸ブロック）（名古屋市）（平成29年11月11日）（実行委員・座長・司会）
6. 松本正俊：全国医学部長病院長会議地域枠制度についての意見交換会（関東ブロック）（東京都）（平成29年11月28日）（実行委員・座長・司会）
7. 松本正俊：全国医学部長病院長会議地域枠制度についての意見交換会（近畿ブロック）（京都市）（平成29年12月9日）（実行委員・座長・司会）
8. 松本正俊：第21回藝州北部ヘルスケアネットワーク（Ge-net）広島地域医療講演会（広島市）（平成29年12月16日）（座長）
9. 松本正俊：全国医学部長病院長会議地域枠制度についての意見交換会（九州沖縄ブロック）（福岡市）（平成29年12月23日）（実行委員・座長・司会）
10. 松本正俊：平成29年度広島市在宅医療・介護連携推進事業におけるかかりつけ医等在宅医療推進研修会（広島市）（平成30年1月25日）（座長・シンポジウム司会）
11. 松本正俊：第16回日本病院総合診療医学会学術総会（別府市）（平成30年3月2日）（座長）

■ コース開催

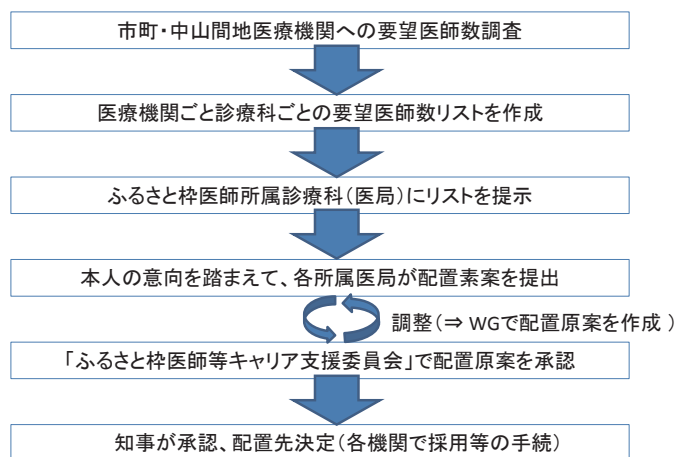
1. 服部文子：第14回神石ICLSコース 神石高原町（平成28年10月）
2. 服部文子：第15回神石ICLSコース 神石高原町（平成29年8月26日）

ミッション③

地域医療課題への対応：地域医療に求められる医療人（医師）養成・育成システムの立案・実施など

①ふるさと枠キャリアプランの更新

平成25年12月に作成した「ふるさと枠キャリアプラン」を平成30年度から始まる新専門医制度の施行にあわせ、更新しました。まず、今までのふるさと枠卒業生の配置実績、入局状況、新専門医制度の内容を踏まえて広島県、広島県地域医療センター、広島大学医学部の3者で協議を重ね、ふるさと枠の配置に関するガイドラインの更新案を作成しました。そのうえで平成29年5月30日に「ふるさと枠医師等配置調整医局意見交換会」を開催し、広島大学病院の各診療科と協議を行いました。そして平成29年7月27日にふるさと枠キャリアプランを正式に更新いたしました。また同時に、広島大学病院で後期研修プログラムを持つ27診療科から診療科別キャリアプランを提出いただきました。これらキャリアプランにおいてふるさと枠卒業生の一般的な進路、配置の原則などが定められました。作成にあたっては平成30年度から開始される新専門医制度と中山間地での義務履行のバランスをとることを意識しました。ふるさと枠卒業生が将来に対して不安を感じることもなく、入学時の約束事を遵守しながら意欲を持ってキャリア形成していけるよう配慮しました。



配置先決定のフロー

②ふるさと枠医師等キャリア支援委員会およびワーキンググループ

ふるさと枠医師および県奨学金受給医師の配置に関する決定を行う「ふるさと枠医師等キャリア支援委員会」およびそのワーキンググループの委員を松本が務めました。ワーキンググループでは、中山間地医療機関診療科別病院別配置要望リストに基づきふるさと枠医師本人と所属医局が相談のうえ作成した配置素案について、全県の視野で不整合部分を調整し、配置原案を作成します。委員会ではこの配置原案について審議し、配置案として決定します。

ふるさと卒医師等キャリア支援委員会WG

	団体（機関）名	職 名	氏 名
リーダー	広島大学医学部 [広島県地域医療支援センター]	医学部長	秀 道広
メンバー	広島大学医学部	消化器・代謝内科学 教 授	茶山 一彰
メンバー		地域医療システム学講座 教 授	松本 正俊
メンバー	広島大学病院	臨床実習教育研修 センター長	田妻 進
メンバー	指定中山間地域等公的医療機関	市立三次中央病院長	中西 敏夫
メンバー		庄原赤十字病院長	中島 浩一郎
メンバー		公立みつぎ総合病院長	西村 修平
メンバー		公立世羅中央病院長	末廣 眞一
メンバー		安芸太田病院長	武澤 厳
メンバー		神石高原町立病院長	原田 亘
メンバー	広島県健康福祉局	地域包括ケア推進部長	武田 直也
メンバー		医療介護人材課長	坂上 隆士
メンバー	広島県地域医療支援センター	参与(兼)医監	碓井 亜
メンバー		部 長	橋本 康男

ふるさと卒医師等キャリア支援委員会

	団体（機関）名	職 名	氏 名
委員	広島大学医学部	医学部長	秀 道広
委員		地域医療システム学講座 教 授	松本 正俊
委員	広島大学病院	臨床実習教育研修 センター長	田妻 進
委員	広島県へき地医療支援機構	運営委員会 会長 [県立広島病院長]	木矢 克造
委員	広島県医師会	副会長	桑原 正雄
委員	指定中山間地域等公的医療機関	三次中央病院長	中西 敏夫
委員	広島県市長会	三次市長	増田 和俊
委員	広島県町村会	安芸太田町長	小坂 眞治
委員	広島県保健所長会	会 長	近末 文彦
委員	広島県健康福祉局	局 長	菊間 秀樹
委員長	広島県地域医療支援センター	センター長	秀 道広

③キャリアプラン説明会（再掲）

平成29年9月27日、ふるさと卒4～6年生およびふるさと卒卒業生全員に対して新キャリアプランの説明会を行いました。同時に、義務履行中の育児休業の扱いについても説明を行いました。

④診療科（医局）訪問

新キャリアプランを基にしたふるさと卒卒業生の配置手順について、説明の要望のあった診療科（医局）を中心し個別訪問し、説明を行いました。訪問した診療科（医局）は次のとおりです：産婦人科、小児科、放射線診断科、整形外科、消化器・代謝内科、救急集中治療医学、第一外科、眼科、リハビリテーション科、血液内科。また同様の目的でJA広島総合病院も訪問しました。

⑤医学部FD

5年生の臨床実習Ⅰにおける地域医療実習の質向上を目的として毎年Faculty Development（FD）として地域医療実習連絡会議を行っています。

平成29年3月17日に開催したFDでは5年生の地域医療実習の協力病院の院長、指導医の先生方にお集まり頂き、各種報告や具体的な方略あるいは教育目標などについて検討しました。実習学生の優秀レポートの選定も行いました。平成28年度は各実習受け入れ病院に対して学部長名で感謝状をお送りいたしました。（ご出席いただいた施設：安芸太田病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院、神石高原町立病院、寺岡記念病院、雄鹿原診療所、吉和診療所）。

平成30年3月17日にも同様にFDを開催しました。事前に選定された学生の優秀実習レポート賞をご紹介し、安芸太田病院、公立世羅中央病院から、それぞれの1年間の成果と課題についてご報告頂き

ました。平成29年度は、長崎県の上五島病院長、八坂貴宏先生をお招きし、特別講演「地域医療機関における本格的な診療参加型臨床実習の取り組み」を企画しました。その後に開催した意見交換会では活発な質疑応答が行われました。（ご出席いただいた施設：庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院、寺岡記念病院、雄鹿原診療所、吉和診療所）



⑥全国地域医療教育協議会

全国の大学医学部・医科大学の地域医療関連講座によって組織されている全国地域医療教育協議会において平成28年度まで竹内が、平成29年度からは松本が世話人を務めています。教員の資質向上に関する事業や調査研究を実施しており、地域医療教育や地域枠に関する最新の情報交換を行っています。本協議会が実施する「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究」の研究本部は広島大学に置かれ、松本が中心となって進めています。

⑦日本医学教育学会

平成28年度から日本医学教育学会「地域医療教育委員会」の委員を松本が務めています。地域医療教育に関するシンポジウムや、地域医療学の教科書作成などの企画に関わりました。

⑧韓国政府およびソウル国立大学視察団受け入れ

韓国Ministry of Health and WelfareのDirector Young IL Sohn、Deputy Director Sooyoung Choo、韓国政府医師偏在対策委員長でソウル国立大学のProfessor Jong-koo Lee、JW LEE Center for Global MedicineのDr. You-Seon Nam、およびソウル国立大学家庭医療学講座のDr. Seo Eun Hwangが日本の



地域枠制度に関する視察および意見交換のため広島県および広島大学を訪問されました。当講座がホスト役を務めました。広島大学においては松本より地域枠制度および自治医科大学の歴史的背景や現状についてデータを交えてご説明し、韓国側とふるさと枠学生との意見交換会も行いました。また秀医学部長との面会も行われました。広島県庁においては、菊間局長、武田部長、田中部長との面会、坂上課長および医療介護人材課のスタッフによる広島県の取り組みの現状説明、橋本部長による広島県地域医療支援センターの活動紹介を行いました。韓国においても医師の地理的偏在は社会問題化しており、政府として対策を進めているとのことでした。



⑨全国医学部長病院長会議「地域枠制度についての意見交換会」開催

平成29年度に実際された全国医学部長病院長会議「地域枠制度についての意見交換会」の実行委員を松本が務めました。この意見交換会は各大学、都道府県、地域医療支援センターの代表者が一堂に会し

平成29年度「文部科学省」大学における医師養成の在り方に関する調査研究事業 「地域医療に貢献する医師の確保・養成のための調査・研究」	
全国医学部長病院長会議 地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会 地域枠制度についての意見交換会（中国・四国ブロック）	
● 趣 旨	地域枠制度等の地域医療に関する最新の話題を共有し、都道府県、大学、地域医療支援センターの関係者間の相互理解を深める。
● H 時	平成29年9月30日（土） 13:15～16:30（予定）
● 会 場	広島インテリジェントホテル本館 2階 会議室（〒730-0804 広島県広島市南区東荒神町2-405）
● 対象都道府県	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
● 参加者	・対象都道府県の地域医療担当者（各1名） ・対象都道府県の地域医療支援センター担当者（各1名） ・対象都道府県の大学の地域医療関連講座代表者（各1名） ・厚生労働省医政局医事課担当者 ・文部科学省高等教育局医学教育課担当者 ・全国医学部長病院長会議（委員長、委員、委員随員、事務局）
● 内 容	◎13:15～ 【受付】 ◎13:30～ 【前半：講 演】（60分程度） 1. 委員長挨拶・概要説明（15分） 地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会 委員長 小林 誠一郎（岡山医科大学 副学長） 2. 委員による講演（10分） 地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会 委員 前田 隆浩（長崎大学大学院医学総合研究科地域医療学分野 教授） 委員 松本 正俊（広島大学医学部地域医療システム学講座 教授） 3. 厚生労働省医政局医事課担当者による講演（各10分） 厚生労働省医政局医事課 課長補佐 石川 文雄 氏 文部科学省高等教育局医学教育課 課長補佐 則本 浩佑 氏 4. 島根県の現状報告（10分） 島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 谷口 栄作 氏 ◎14:30～ 【休憩】（10分） ◎14:40～ 【後半①：グループワーク】（55分程度） 1. グループワークの説明（10分） 2. グループワーク（30分） 3. グループ内のまとめ（15分） ◎15:35～ 【休憩】（10分） ◎15:45～ 【後半②：グループ発表と全体討議】（45分程度） 1. グループ発表（30分）※1グループにつき、発表および質疑を含め10分程度 2. 全体討議（10分） 3. 全体討議のまとめ（5分） ◎16:30 【閉会の挨拶】
※ 本意見交換会において議論ならびにご報告いただいた内容は、ブロック名以外を匿名化した上で、平成29年度調査報告書に記載させていただく予定です。	

て地域枠制度についての情報交換を行うもので、全国を6ブロック(北海道東北(10/21)、関東甲信越(11/28)、中部(11/11)、近畿(12/9)、中四国(9/30)、九州沖縄ブロック(12/23))に分けて開催されました。初回となる中四国ブロックは広島で開催され、当講座がホスト役として準備を行いました。他のブロックにおいても松本が準備、講演、司会、ファシリテーター等を務めました。



ミッション④

地域医療体制確保のための県内医療機関等に対するコーディネート業務と支援：広島県地域保健医療推進機構が行う業務に対する技術的助言・協力等

①広島県地域医療支援センター

平成29年4月1日より広島県地域保健医療推進機構内にある広島県地域医療支援センターの医監を松本、木村、石田が務めております。夏季、冬季および春季休暇における地域医療セミナーの当講座との共同開催、ふるさと卒卒業生の配置調整業務、ふるさと卒キャリアプラン更新作業などに深く関与しました。またセンターが独自に行っているドクターバンク事業への助言、女性医師支援事業への協力なども行いました。センターが開催する若手医師等育成支援事業選考委員会、広島県へき地医療支援機構運営委員会などの委員を松本が務めました。

②広島県地域保健対策協議会（地対協）

広島県地域保健対策協議会（地対協）の医師不足対策専門委員会および医療・介護連携推進専門委員会の委員として竹内、松本が協議に参画しました。また同協議会の医師確保対策専門委員会内科ワーキング会議、在宅医療介護連携推進専門委員会、在宅医療にかかる医療機能調査小委員会の委員も松本が務めました。

③広島県における地域包括ケア体制の確保

平成28年度、広島県地域包括ケア推進センターにおいて、竹内が多職種連携推進ワーキングチームリーダーおよび看取り検討部会長を務めました。また、広島県医師会の在宅医療推進委員会委員長および広島市在宅医療・介護推進委員会委員長を務め、広島県における地域包括ケア／在宅医療の推進のためのさまざまな協議や事業に参画しました。平成29年度は松本が広島市在宅医療・介護推進委員会委員長、および在宅医療の推進方策専門委員会、ICTの活用方策の検討専門委員会の委員を務めました。

④中山間地医療機関への診療支援

地域医療実習受け入れ機関である庄原赤十字病院、神石高原町立病院、安芸太田病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院の外来診療の応援を週1～2回行いました（外来実習指導を兼ねて）。また当直医不足である神石高原町立病院の夜間当直支援も行いました（毎週火～水曜日）。